



COLONNADE

特集

「JIA 建築家大会 2014 岡山」 報告

- ・ シンポジウム「良質な建築・まちづくりのアドバイス機構をつくるためには？」で浮き彫りになったこと 2
連健夫建築研究室 連 健夫
- ・ 住宅部会の全国ネットワーク『全国住宅部会連絡会議』を開催しました。 3
ダンス建築研究所 鈴木利美
- ・ 参加報告 JIA 環境会議「公開委員会 & 公開討論会」風土に根ざした魅力的な環境デザイン 4
寺尾三上建築事務所 寺尾信子
- ・ 新入会員の大会報告 5
梶浦教建築設計事務所 梶浦 暁 / アール・アイ・エー 原口尚也
 Pacific Architects & Engineers 中村秀美 / 白江建築研究所 白江龍三

FORUM

- 建築教育の今「明治大学 理工学部建築学科」 6
- 建築教育の今「日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校」 7
- アフリカの今 8
日本設計 安部貞司
- 小泉 誠氏に聞く「これからのデザイナーの役割」 10
広報委員
- 広島県における CUBE 的取組 12
映建築設計事務所 山田 暁
- 建物リノベーションの様々な手法 13
ナガト建築事務所 長戸 厚
- 「グリーントイレワークショップ 2014」レポート 14
OSA ジャパン 坂田 泉
- 建築家との接点 15
廣田裕一建築設計事務所 廣田裕一
- B グループ 軽井沢サロン会議開催 16
日新工業 白石健次
- 横濱 生糸を守った建築家「遠藤於菟」 17
カサイアーキテクチャルデザイン 笠井三義
- 環境・建築デザインセミナー「建築のコモナリティ」 18
相田土居設計 土居志朗
- 文京建築会の活動について 19
野生司環境設計 野生司義光
- 職能問題 認知されていないこの国で「建築家マインド」を誰が、どう「社会化」できるのか？ 20
大倉富美雄デザイン事務所 大倉富美雄 / ASCO partners 安達治雄
 小池建築設計事務所 小池正人 / アイデア建築研究所 近藤弘文 / アーキボスト 観音克平

BACKYARD

23

JIA Forum



シンポジウム

「良質な建築・まちづくりのアドバイス機構をつくるためには？」で浮き彫りになったこと



建築・まちづくり委員会
委員長

連 健夫

「JIA 建築家大会 2014 岡山」大会にて9月25日、シンポジウム「良質な建築・まちづくりのアドバイス機構をつくるためには？」が行われた。この企画は建築・まちづくり委員会主催で、一昨年の2012横浜大会、昨年の2013北海道大会の「日本版CABEを考える」に続くもので、良質な建築・美しい街づくりをするための仕組「建築・アドバイス機構」についてディスカッションするのが目的である。今回は、第一線で活躍する都市計画家、建築三会の会長、前会長を招き、40人を超える参加者を得て深みのある内容となった。

良質な建築、街づくりの制度、それはすなわち専門家の価値が評価され、登場の機会をつくる制度でもあり、大きく3つの方法がある。①建築まちづくり基本法は今の法制度に加えるやり方で、2003年に神田順氏を中心とする「建築基本法制定準備会」が設けられ活動している。JIAにおいても「建築基本法特別委員会」が設置され活動中であることを森暢郎委員長から報告がなされた。②として、建築基準法の集団規定を許可申請にする方法があり、これは今の法制度を変えるやり方である。五十嵐敬喜氏等の「都市改革立法チーム」が活動中で、その中心メンバーである野口和雄氏（都市プランナー）から「建築確認から建築許可へ」のプレゼンがなされた。人口減少社会、都市縮小社会に対応した都市法として、基本理念を明確にした上で集団規定を協議調整が可能な許可申請にすべきである、との論である。次に③の方法として日本版CABEの推進があり、これは現法制度を変えずに挿入可能な方法である。「英国CABEと建築デザイン・都市景観」（鹿島出版会）の坂井文氏との共著者である小出和郎氏（都市環境研究所）から「日本版CABEの役割と可能性」のプレゼンがなされた。景観行政において実務家が前面に出る必要性やアドバイス機構における事務機能の大切さを、担い手支援事業などの活動経験から指摘された。上浪寛副会長からは「オリンピック施設計画における建築アドバイス機構」についてJIAの活動が紹介された。JIAの立場として、オリンピック施設計画に反対するのではない、他会と共に専門家として課題や問題

点を掘り下げることにより情報公開すること、を明確にした。

コメンテーターの三井所清典氏（日本建築士会連合会会長）は、行政の信頼を得る上で、普段の地道な活動の大切さと共に、専門家の質という意味で教育の大切さを指摘した。三柄邦博氏（日事連名誉会長）は、目指す目標についての国民的合意が前提となる、目標達成に向けたさらに幅広い戦略的アプローチが必要になる、国民負担の増大とどうバランスさせるかが課題となる、と指摘した。会場から長島孝一氏が、当面は日本版CABEを推進する方向で良いと思うが最終的には許可制に移行すべきだ、とコメントした。ディスカッションの中で浮き彫りになったのは行政との関係である。上浪氏は都の財務局とのデザインビルドに関する意見交換の中で信頼関係が醸成されたことを紹介した。会場からは、地方の方が行政との関係を作り易いのではないかと（森岡氏）など、行政との望ましい関係について話が及んだ。まとめとして芦原会長は、具体的事例を作っていくことが大切である、併せて萌芽事例を収集すべく3会が協力して情報交換をする、オリンピックを契機にアドバイス機構を具現化していく、建築まちづくり基本法の実現に3会の協力で推進していく、とまとめた。建築アドバイス機構は地域の実情において様々な形がありうる。全国から会員が集まる大会のシンポジウムであるがゆえに、今回の参加者が感じたものを地域において相応しい形で活動し、推進することが大切であることを、改めて共有することができた。



岡山大会シンポジウムの様子